

特定非営利活動法人エティック
「子どもの未来のための協働促進助成事業」
助成事業概要

事業名	日本初の大型総合LGBTQセンター「プライドハウス東京」設立プロジェクト-情報・支援を全国へ届ける仕組みを創り、LGBTQの子ども/若者も安心して暮らせる未来へ-
実行団体	特定非営利活動法人グッド・エイジング・エールズ
対象とする子ども・若者（もしくはその家族等）の状況や抱える課題・ニーズ	LGBTQは約12人に1人とも言われるが、不適切な情報や周囲の無理解、支援の不足などにより、特に学齢期における自殺念慮やいじめ経験が高い。また、学校・家庭に居場所のない状況は暴力等の被害の遭いやすい事態にもつながる。なお、困難は学齢期だけではなく、青年期における就活/就労にも続き、貧困や、メンタルヘルスの悪化にも影響している。喫緊なLGBTQの子ども・若者の状況を変えるには、情報を届けて環境を変えること、安心・安全な場所を提供し直接・間接支援を行うことの両輪が重要だ。また、本課題においては、情報や相談先等の社会資源を含めた、首都圏とそれ以外の地域の格差が指摘されており、全国各地に届ける必要がある。そのために、個別的に動いている主体をコレクティブにつなぎ、LGBTQの子ども/若者の支援・啓発拠点のモデルケースをつくとともに、人財育成、情報リソースの集約・提供を行う役割などを担い、全国に波及させる仕組みをつくる必要がある。
事業概要	「プライドハウス東京」は、50団体を超える官民産学のコンソーシアムによりコレクティブに課題に取り組み（コンソーシアム体制）、以下3つの機能により、目指す社会的インパクトを生み出す。 1) 支援・啓発の拠点として、日本初の大型総合LGBTQセンターを東京に設立し（センター機能）、 2) 情報を集約し、誰もがオン/オフラインでアクセス可能にし（情報プラットフォーム機能）、 3) 全国各地へ支援・情報を届ける仕組みをつくり提供する（アウトリーチ機能）。 なお、2020年は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、LGBTQユース向けのオンラインの居場所づくりを緊急で立ち上げる。また、東京オリンピック・パラリンピックが来年に延期となったことを受け、当初2021年に取り組む予定だった常設センターを、前倒して東京都内で設立し、可能な範囲での支援を通して課題やニーズの可視化を行う。2021年は、常設センターでの具体的な支援・啓発プログラムの確立を目指すとともに、東京2020の公認プログラムとして国内外への情報発信の強化を目指す。2022年は、常設センターの持続可能な運営体制と、全国へのアウトリーチ機能を強化する。このことにより、LGBTQユースがどの地域でも適切な支援と正しい情報にアクセスできる体制を構築し、LGBTQユースもありのまま大人になれる日本を創る。
事業実施地域	東京都、及び全国
助成総額	30,000,000円
評価関連経費	1,500,000円
事業実施期間	2020年 7月 ～ 2023年 3月

■選定の理由

- 若年者のLGBTQの支援は極めて重要であり、地域を限定しない、様々な主体が連携した有効な施策の確立という観点でこの取り組みは重要である。
- 既に多様なステークホルダーによるコンソーシアムが立ち上がり、海外のノウハウやネットワーク活用もふまえ、実現可能性に期待できる。
- プライドハウス東京は幅広い対象層やテーマの事業を行っており、本助成では子ども・若者を対象とした助成に注力することで、その観点でのモデル/エコシステムづくりを期待する。